



M.M.Honcho Newsletter

【9月号】令和5年8月31日発行



前期後半のスタートに

校長 小正和彦

長い夏休みも終わり、前期後半が始まりました。いろいろな場面で「4年ぶり」が見られた今年の夏休みでしたが、猛暑の連続や極地的な暴風雨、一方で深刻な水不足、農業や漁業への影響など、日本国内だけで見てもますます気候変動を実感する夏休みでもあったと思います。

夏休み明け初日の朝会では、久しぶりに登校してきた子どもたちに、次の二つの話をしました。一つ目は、5週間強の長い夏休み期間中、全員が大きな事故なく過ごし、また今日集まることができていることをとても嬉しく思っていることを伝えました。この夏も交通事故や水難事故、さらに大雨による災害の被害など、子どもが犠牲となる事故が報道されました。授業中でしたら報道の度に細やかに注意やケアをできるのですが、長期休業中はそれできず、報道に接するたびに何とも不安な気持ちになり、ただただ安全を願うばかりでした。一人ひとりがしっかり考え、行動したこととともに、各ご家庭のご協力に感謝申し上げます。また、夏休み明け、生活のペースも変わり、心や体が不調になることは普通であり、自分に対しても周りの友達に対しても、気かけ、優しくなれるといいねと話しました。ご家庭と学校の連携がとても大切な時期といえます。よろしくお願いいたします。

二つ目は、夏休みの頑張りこれからのお楽しみについてです。旅行やお出かけなどご家庭でのいろいろな体験の機会をもち、勉強やスポーツ、習い事など自分を鍛えることに一生懸命頑張った子どもも多くいたと思います。一人ひとりが自分を成長させたことと思います。学校が再開して、ここからは、そのような一人ひとりの体験や努力、それを通して得

た知識やアイデア、興味や関心、さらに得意なことなどを、今度はクラスや学年、学校全体の場で生かすことを楽しみにしていると伝えました。一人ひとりが育てた自分と、その違いを活かし合う、色とりどりの多様性がこれからの本校のよさになればとても嬉しいと思います。夏の成果「キラビト」も楽しみです。是非ご家庭におかれましても、それぞれの取組への評価とともに、違いを楽しみ、認め合い、活かし合うことへの価値付けをご一緒にいただけましたら有難く思います。

1月に渋谷教育学園渋谷中学高等学校で開催されたユネスコスクール全国大会に続き、7月30日(日)に東海大学湘南キャンパスで開催されました「ユネスコスクール関東ブロック大会」に参加してきました。個人的には前任校であるお隣の幸ヶ谷小学校でもユネスコスクールに加盟しましたので、ESDの推進拠点であるユネスコスクールとは10年以上関わってきていますが、社会的ニーズとも合致し、公立・私立含め着実に実践を積み重ねてきている学校が増えています。本校はMM地区という地域性を生かした活動を進めてきていますが、それぞれの地域性や校種に合わせて、これからの子どもにとって、また文字通り持続可能な社会の実現に向けて、実効性のある取組が多くなってきています。本校も今年度の取組が本格化していく時期に入ります。保護者の皆様、地域や外部協力者の皆様とともに、着実に積み重ねていきたいと思っております。引き続き、よろしくお願いいたします。

《専任より》

夏休み明け、自分と向き合い、緩やかに!!



前期後半の学校生活が始まりました。夏休み明け、生活ペースが変わると、疲れが出やすくなることともに、心や体が不調になることもあります。学校では、今週子どもたちに「MMHアンケート」を実施しました。「ご飯はしっかり食べられているか」「心配なことはないか」「自分の気持ちを伝えられる人はいるか」等、自分の体や心と向き合う時間をとるとともに、いつも以上に丁寧に一人ひとりの子どもたちの実態把握に努めています。ご家庭でも、何か気になる様子や心配なことがありましたら、遠慮なくお知らせください。引き続き、学校と家庭が両輪となって、子どもたちの健やかな成長を支えていきましょう!

睡眠、食事、適度な運動。暑さにも気を付けながら、緩やかに生活リズムを整えていけるとよいですね。よい生活習慣はすべての基礎基本です。しっかりリズムを整えて、元気いっぱいな学校生活を送りましょう!

児童支援専任 赤津 淳子